

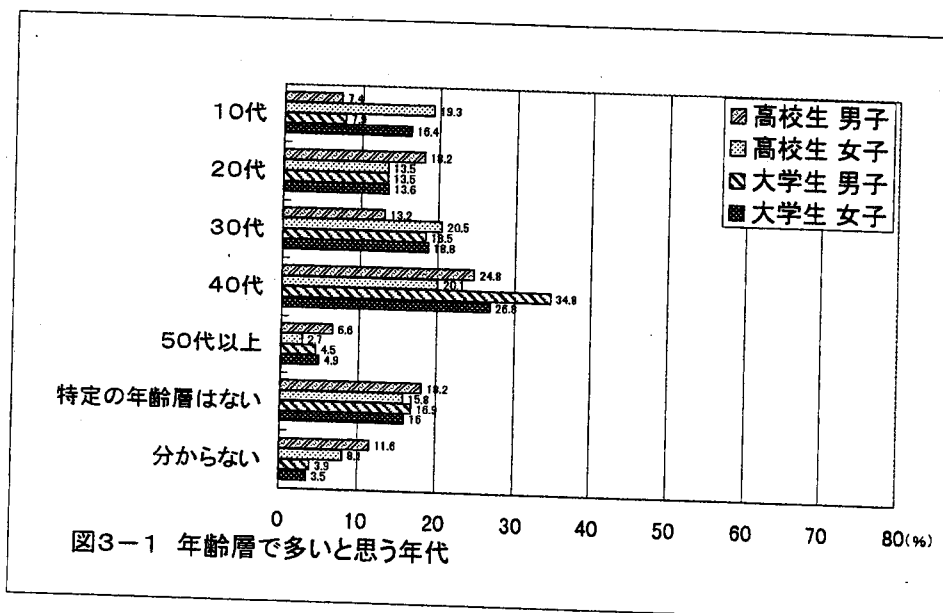
第3章 痴漢行為を行う犯人および被害者の人物像

1. 痴漢行為を行う犯人の人物像

ここでは、痴漢行為でもっとも多い、乗り物内で女性の体に触る行為を対象に、こうした痴漢行為を行う者はどのような人物か、その年齢層、身分、服装等についてたずねた結果を報告する。

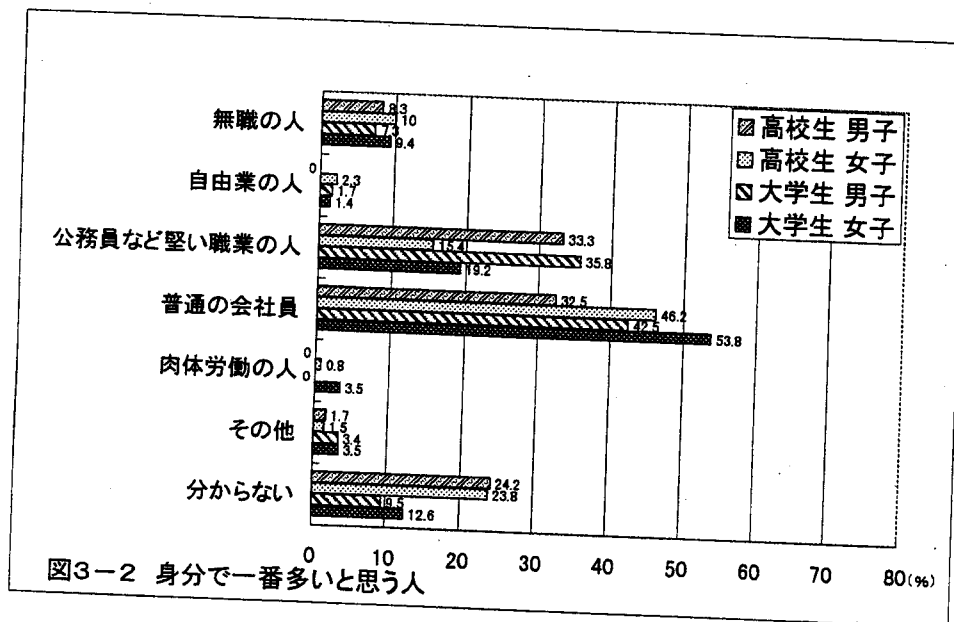
① 痴漢の年齢層

痴漢の年齢層についての回答結果を図3-1に示す。高校生男子および大学生では、40代がもっとも多くなっている。高校生女子では、40代とともに30代も20%程度でともに多くなっている。高校生女子の方が年齢が低いので、いずれにしる自分たちからみてある程度年齢の上の中年男性ということであろう。しかしながら男女で比較してみると、女子では男子に比べ10代とする者の割合が多くなっている。男子では7%程度であるのに対し、大学生女子では16%、高校生女子では19%で、30代、40代と変わらない数値となっている。女子では同年代のものが、このような痴漢行為ををするとしている者の割合が相対的に高くなっているといえる。そのため女子の年代別の分布を見ると10代と30代、40代が高く、間の20代が低い双峰性の分布を示している。男子と比較して女子の方が実際にこうした痴漢の被害を受けることが多いことを考えれば、特に男子で40代の割合が高いことについては、中年男性に対する一般的イメージが反映されている部分があると考えられるかもしれない。



② 痴漢の身分

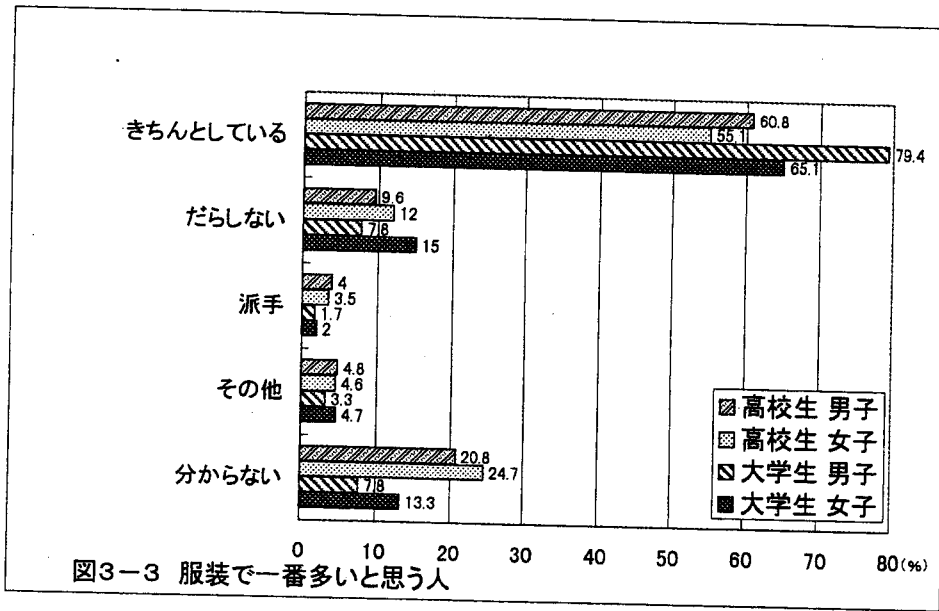
身分については、図3-2にあるように、全体的に見て「普通の会社員」が30~50%を占め、多くなっている。ついで「公務員などの堅い職業の人」であり、無職、自由業、肉体労働者などは少ない。また「わからない」が10~20%ある。しかしながら男女による違いも見られる。男子、特に高校生男子では、「普通の会社員」と「公務員」の割合は、ほぼ同等であるが、女子では、「普通の会社員」がずっと多くなっている。従って「公務員」とするものの割合は、女子に比較し男子で多くなっている。ここにも公務員などの堅い職業の人が、かえってこのような痴漢行為を行うのだ、というイメージが男子においてみられるといえよう。



③ 痴漢の服装

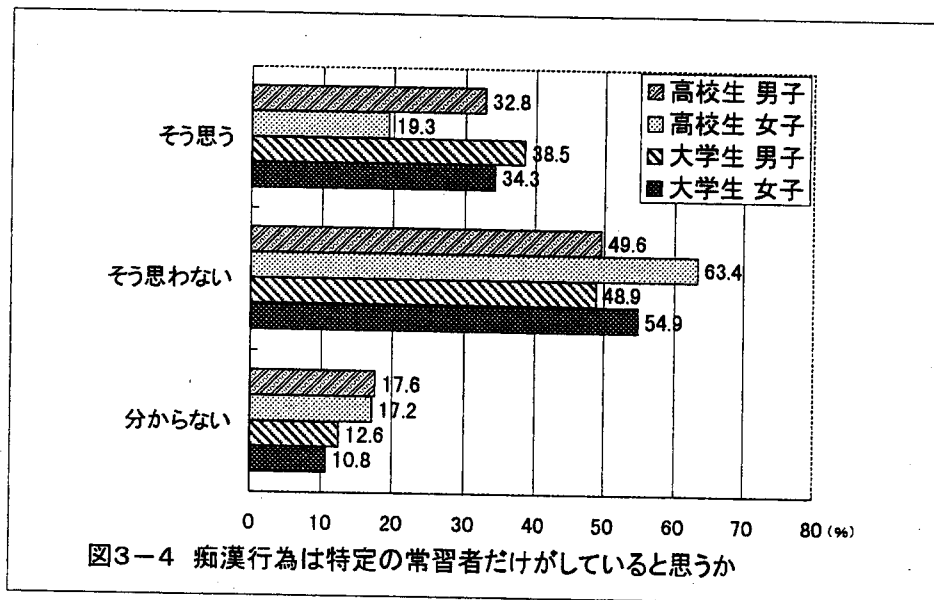
痴漢の服装に関する結果を図3-3に示す。

服装も身分と関連しているが、「だらしない」「派手」に対し、圧倒的に「きちんとして」いる」という回答が多く、55~80%程度をしめている。ここでも同様に男女差がみられ、女子では「きちんとしている」が相対的に少なく、「だらしない」とするものが1割を超えている。



④ 痴漢は常習者が行っているか

最後に、痴漢の人物像として痴漢は常習者が行っているかという質問に対する回答結果を図3-4に示す。高校生女子を除いて、そう思うが3~4割、思わないが5割程度であり、いくぶん常習者ではないとする回答が多くなっている。これに対して高校生女子では、そう思う19%に対し、そう思わないが63%と、常習者ではないとする者の



割合がかなり高くなっている。こうした違いは、高校生女子において、常習的ではないと思われる人物からの被害経験を反映しているのだろうか。

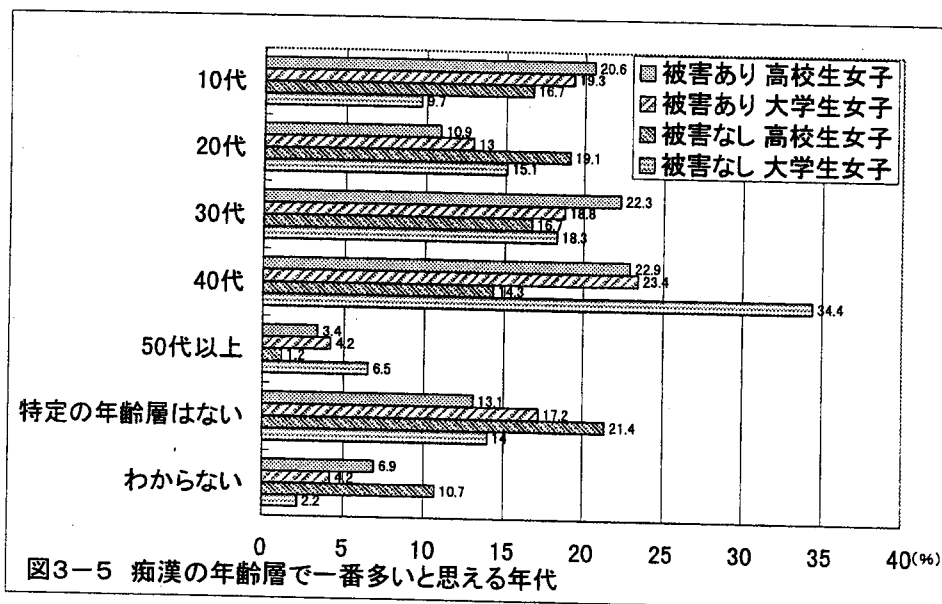
全体的に見れば、乗り物内での痴漢行為を行う人物の一般的イメージは、中年の普通の会社員で、みなりはきちんとしている人物で、必ずしも常習者とは思われない、というところであろう。

2. 体に触られる痴漢被害経験の有無別にみた痴漢行為を行う犯人の人物像

体に触られる痴漢被害経験を持つ者とそうでない者とは、痴漢を行う痴漢像についてなんらかの違いが見られるであろうか。ここでは高校・大学の女子のみに限って、体に触られる痴漢被害を受けたことの有る者と無い者とで、乗り物内で女性の体に触る行為を行う痴漢の人物像についての結果を比較する。なお先に記述されているとおり、被害が有るとした者が全体の約7割を占める。

① 痴漢の年齢層

被害の有無別による痴漢の年齢層に関する集計結果を図3-5に示す。

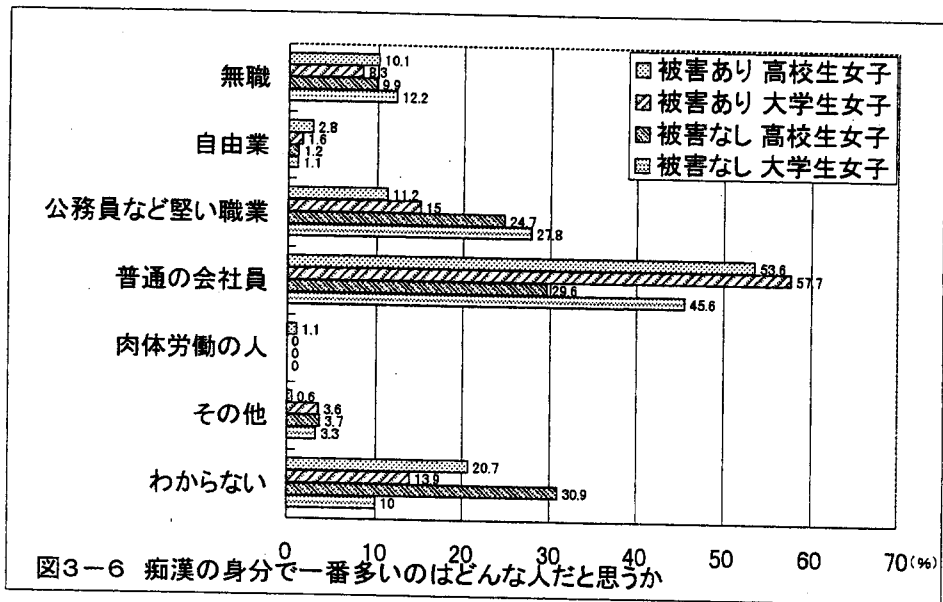


特に大学生女子において、被害経験の有無によって、痴漢の年齢層で多いのは10代とするものの割合が異なっており、被害経験がある場合20%弱であるのに対し、無い場合は、10%弱となっている。高校生女子でも差は小さいが同様の傾向が見られる。男子と女子を比較した場合も、男子において10代とする者の割合が7%程度と低かったが、被害経験の有無によっても同様の違いが見られたことから、こうした男女差は、女子における実際の被害経験に基づくものと考えることができよう。

逆に被害経験のない大学生女子で40代とするものが、被害経験がある者より10ポイント以上高くなっており、これも男子の結果と類似の傾向を示しており、中年男性に対する一般的イメージを反映している部分があるといえよう。被害経験のない高校生女子では、各年齢層にばらついており、また特定の年齢層はない、わからないを合計すると3割をこえているが、年代層を答えた者の中では20代がピークとなっており、自分たちの年齢より少し高い層、というイメージがあると思われる。

② 痴漢の身分

被害の有無別による痴漢の身分に関する集計結果を図3-6に示す。



被害経験の有無によって、「公務員など固い職業」とする者の割合に違いが見られる。被害経験が無い者では、高校生女子で25%、大学生女子で28%であるのに対し、被害経

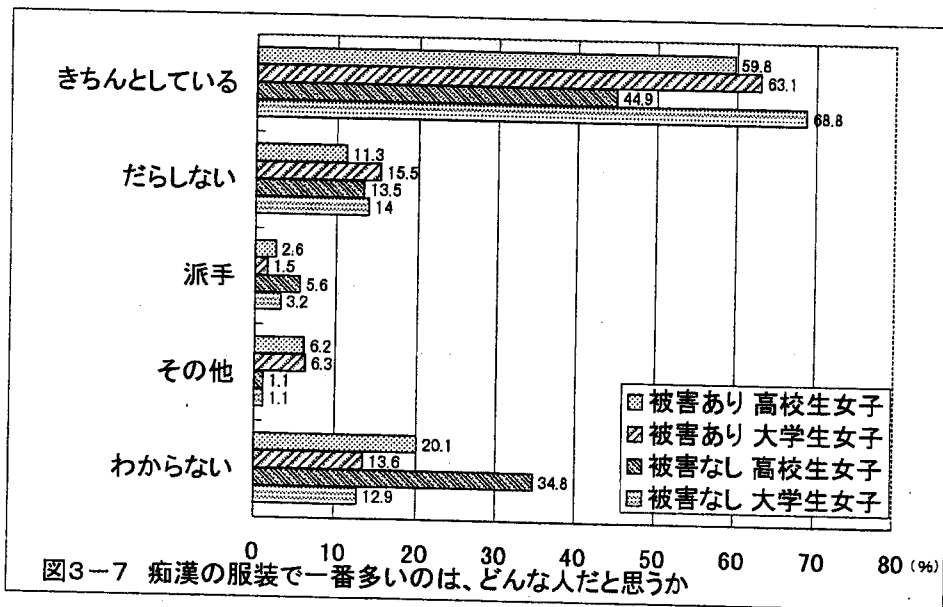
験がある者では、それぞれ11%、15%となっており、いずれも被害経験が少ない場合に、その割合が低くなっている。逆に「普通の会社員」とする者の割合が、被害経験のある場合には高くなっており、高校生で53%、大学生で57%といずれも半数を超えている。

被害経験の有無による違いは、やはり男女差と対応しており、被害経験の無い女子では、男子と被害経験のある女子との中間的な結果となっているといえる。ここでも被害経験のない高校生では、「わからない」が3割にのぼるが、「公務員などの固い職業」の人物が痴漢を行う、という一般的なイメージの存在によって影響されている部分があると思われる。

③ 痴漢の服装

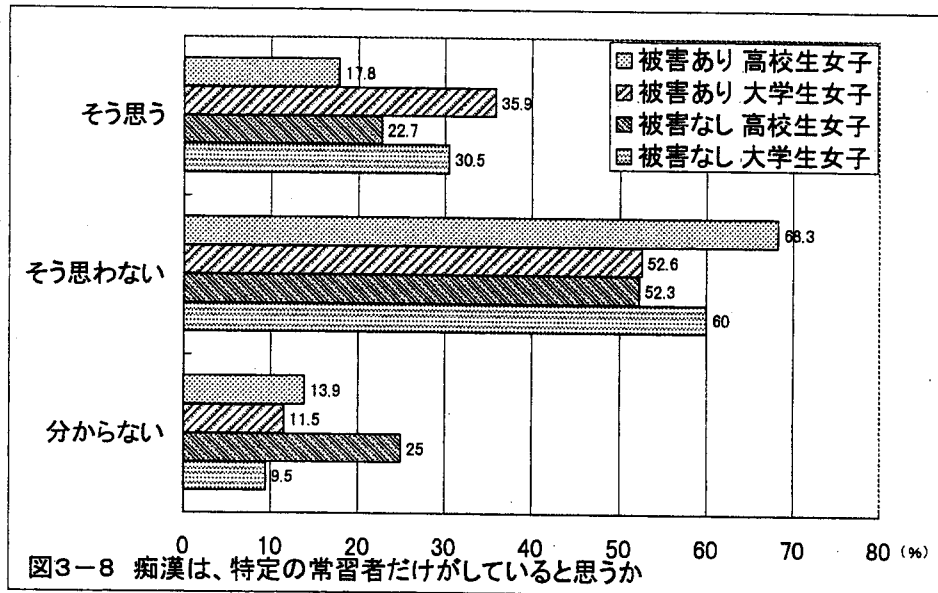
被害の有無別による痴漢の服装に関する集計結果を図3-7に示す。

高校生女子については、やはり男女による違いと同様の傾向が見られる。すなわち被害経験のあるグループで、きちんとしているとする者の割合が60%であるのに対し、被害経験がない場合には45%となっており、被害を経験している者では、きちんとしているとする者の割合が高くなっている。ただし被害経験のないものでは、わからないとするものがやはり35%程度あり、大学生女子ではこうした傾向は見られていないので、この違いについてははっきりしたことはいえない。



④ 痴漢は常習者が行っているか

被害の有無別に集計した結果を図3-8に示す。



この設問に対する回答結果は、先述のように高校生女子と大学生女子とでは異なった様相を示している。高校生女子では、そう思わないと答えている者の割合が大学生より高かったが、高校生女子において被害経験の有無で比較すると、被害経験が無いものでは52%であるのに対し、被害経験の有るものでは68%とより高率になっている。従って高校生女子において、常習者ではないとする者の割合が高かったことは、実際の被害経験からの影響によると思われる。しかしながら大学生ではこのような傾向は見られない。高校生と大学生とでは、高校生の方が被害にあった年齢のピークがいくぶん低いので、被害者の年齢によって、痴漢行為を行う者自体が異なっている可能性もあろう。

3. 痴漢被害者の人物像

一方痴漢被害者の人物像はどのようなものであろうか？ ここでは被害者の人物像に関する質問の回答結果を分析する。